

マックス株式会社 2025 年3月期 第1四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2024 年 7 月 31 日（水）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

5 月に欧米で販売を開始した鉄筋結束機新製品の市場での評価状況について教えてください。

〔回答 1〕

鉄筋結束機の機械は、欧米ともに前年同期比で数量増となっており、第 1 四半期の売上高には新製品が相当程度寄与しています。一方で、5 月に販売を開始したばかりであることから、市場における評価はまだ捉え切れていません。第 1 四半期は、旧製品の在庫が若干残っていましたが、現在は、欧米ともに、流通在庫も含めて新製品にほぼ切り替わっています。今後、より一層拡販を進めるとともに市場における評価を確認していきたいと考えています。

〔質問 2〕

昨年 1 2 月に先行して国内で販売を開始した鉄筋結束機新製品の販売状況と、今後の見込みについて教えてください。

〔回答 2〕

市場からの評判も上々で、新製品効果により鉄筋結束機の機械の販売数量は伸長しています。購入形態としては新規と買い替えの両方の需要があると認識しており、また鉄筋結束機事業に対して営業工数を積極的に投入していることなどから、今後も引き続き伸長が見込めるものと考えています。

〔質問 3〕

欧州での鉄筋結束機の販売数量の回復要因として、新製品効果と市況による影響のどちらが大きいのか、教えてください。

〔回答 3〕

回復の要因は、新製品の拡販や市況が堅調な南欧などのエリアへの活動強化による影響が大きいと考えています。新製品の拡販と市況が堅調なエリアへの活動強化の影響は同程度であると認識しており、双方が確実に販売数量の回復に寄与しています。また、主要エリアであるドイツや北欧などの市況は引き続き停滞していますが、更に悪い状況にはなっていないと認識しています。

〔質問 4〕

ドイツや北欧の市況は底を打ったという認識でしょうか。

〔回答 4〕

全てを把握できているわけではありませんが、市場分析や現地からの情報をふまえると、底を打ちつつあると感じています。

〔質問５〕

鉄筋結束機の新製品の収益性について、従来機との比較で教えてください。

〔回答５〕

旧製品から収益性は大きく変わっていません。

〔質問６〕

鉄筋結束機の新製品の海外での販売価格も、旧製品と比較して引き上げているのでしょうか。

〔回答６〕

若干引き上げています。

■全社状況について

〔質問７〕

修正計画について、第１四半期と比較して第２四半期の営業利益が減少している要因を教えてください。あわせて、季節性の有無についても教えてください。

〔回答７〕

第１四半期と第２四半期の為替レートの違いによる影響や、元々第１四半期に予定していた販売管理費の未執行分が第２四半期以降にずれ込んだことによります。また、第１四半期と第２四半期で業績に大きな影響を与える季節性の違いはありません。海外の鉄筋結束機事業は、春から夏にかけては需要期となりますので、第２四半期も引き続き拡大を進められる環境にあると考えています。

〔質問８〕

為替感応度を教えてください。

〔回答８〕

アジア通貨は米ドル連動を前提として、米ドルに換算し、年間で売上高に対してドルは２億円/円、ユーロは８千万円/円の影響となります。営業利益の為替感応度は、米ドル５千万円/円、ユーロはほぼ仕入れが無い場合と同様の８千万円/円となります。決算説明会資料のスライド６に掲載しています。

〔質問９〕

第１四半期に純投資としていた株式の売却がありました。政策保有株式を含めたこのような株式の売却は、今後も継続的に実施していくのか教えてください。

〔回答９〕

今回の株式売却は、以前持ち合いを解消し、保有目的を純投資に切り替えた株式を、第１四半期に売却したものです。今後、政策保有株式は基本的に縮減していく方針です。

〔質問１０〕

大株主による当社株式の売却可能性について教えてください。

〔回答１０〕

大株主の中には、公表している中期経営計画などで保有株式の縮減に具体的に触れているところもあり、当社にも影響があると考えています。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が２０２４年７月３１日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。